

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/2226">https://repository.ninjal.ac.jp/records/2226</a>

# 日本語科学

Japanese Linguistics

25

2009年4月

April, 2009

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

Tokyo, Japan

# 日本語科学 25

## Japanese Linguistics 25

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

2009年4月

April, 2009

---

### 研究論文 Articles

複文発話の構文的特徴と聞き手の言語的反応との関わり—ケド, タラ, カラを中心に—  
Relationships between the syntagmatic features of the utterance and the hearer's  
linguistic responses in the discourse

永田 良太 NAGATA Ryota 5

現代語の連体修飾節における助詞「の」

The particle *no* in the modificational construction of modern Japanese

金 銀珠 KIM Eunju 23

理解の問題と発話産出の問題 —理解チェック連鎖における「うん」と「そう」—  
Problem in understanding and problem in speaking:

Uses of *nn*-type and *soo*-type tokens in response to understanding check in  
Japanese conversation

串田 秀也 KUSHIDA Shuya 43

第二言語習得において学習者の適性が学習成果に与える影響

一言語分析能力・音韻的短期記憶・ワーキングメモリに焦点を当てて—

Contribution of language aptitudes to second language learning:

Roles of language analytic ability, phonological short-term memory, and working  
memory

向山 陽子 MUKOUYAMA Yoko 67

調査報告 Report

サ変動詞の活用のゆれについて・続 一大規模な電子資料の利用による分析の精密化—  
Morphological changes of *sahen*-verbs revisited

田野村 忠温 TANOMURA Tadaharu 91

研究ノート Notes

中国語母語学習者の日本語の漢字語習得研究のための新たな枠組みの提案  
—意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して—

A new framework for acquisition of Japanese kanji compounds targeting Chinese learners of Japanese:

In consideration of general semantic usage and semantic inferability

陳 毓敏 CHEN Yumin 105

韓国語を母語とする日本語学習者による漢字の書き取りに関する研究  
—学習者の語彙力と漢字が含まれる単語の使用頻度の影響—

Kanji writing ability of native Korean speakers learning Japanese:  
Effects of lexical knowledge and word frequency

宮岡 弥生 MIYAOKA Yayoi 玉岡 賀津雄 TAMAOKA Katsuo

林 炫情 LIM Hyunjung 池 映任 CHI Youngim 119

研究所報告 NIJLA Reports

行政用文字の調査研究における文字同定

—辞書同定と辞書非掲載字に対する文献資料・非文献資料による同定—

The method to identify the Japanese e-government system characters with the kanji dictionary characters and the missing kanji dictionary characters

高田 智和 TAKADA Tomokazu 131

条件表現の地理的変異 一方言文法の体系と多様性をめぐって—

Regional variations of conditional expressions:

On systems and multiplicity of dialect grammars

三井 はるみ MITSUI Harumi 143

---

既刊内容 (第22 ~ 24号)

『日本語科学』投稿規程・執筆要領

査読者一覧 (第24 ~ 25号)

編集後記

休刊に関する重要なお知らせ

既刊内容 (第 22~24 号)

【第 22 号】(2007 年 10 月) 特集: コーパス日本語学の射程

コーパス日本語学の射程	丸山岳彦/田野村忠温
コーパス日本語学の可能性 —大規模均衡コーパスがもたらすもの—	前川喜久雄
語彙調査からコーパスへ	宮島 達夫
コーパス言語学と日本語研究	後藤 斉
多言語コーパスと日本語研究 —「中日対訳コーパス」の利用研究例から—	曹 大峰
学習者と母語話者における日本語複合動詞の使用状況の比較	
—コーパスによるアプローチ—	陳 曦
コーパス日本語学のための言語資源 —形態素解析用電子化辞書の開発とその応用—	
伝康晴/小木曾智信/小椋秀樹/山田篤/峯松信明/内元清貴/小磯花絵	
現代雑誌 70 誌における漢字の使用実態と常用漢字表	
—国語施策へのコーパス活用に向けた基礎調査—	小椋秀樹/相澤正夫
日本語研究のための XML タグ付けプログラム —その開発と活用例—	小木曾智信/近藤明日子
日本語用例・コロケーション情報抽出システム『茶漉』	深田 淳
日本語と韓国語における文末スタイル変化の仕組み	
—時間軸に沿った敬体使用率の変化に着目して—	申 媛善
世界の言語研究所 (22) アジア・アフリカ言語文化研究所 (日本)	峰岸 真琴

【第 23 号】(2008 年 4 月)

世界の言語地図作成・活用状況に見る言語地理学の現状と課題	福嶋 秩子
談話中に現れる間投詞アノ (一)・ソノ (一) の使い分けについて	堤 良一
方言意識の日韓対照 —役割語翻訳の観点から—	鄭 惠先
コーパス検索ツール Sketch Engine の日本語版とその利用方法	
スルダノヴィッチ・エリャヴェッツ・イレーナ/仁科喜久子	
中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理	
—同形類義語と同形異義語を対象に—	小森和子/玉岡賀津雄/近藤安月子
行政用文字の調査研究—汎用電子情報交換環境整備プログラム—	高田智和/井手順子/虎岩千賀子
「福祉言語学」事始	相澤 正夫
世界の言語研究所 (23) フィンランド国内諸言語研究所 (フィンランド)	庄司 博史

【第 24 号】(2008 年 10 月)

行為指示談話における直接形式の使用 —自治体活動での一事例—	牧野由紀子
「まじめ」の原型意味論 —大学生質問紙調査に見られる規範意識—	山中信彦/安田美幸
総合雑誌に見る名詞「状態」の用法 —約 100 年を隔てた 2 誌を比較して—	新屋 映子
英語母語幼児の日本語におけるテンス・アスペクトの習得	
—タ形・テイ形の習得状況からみたアスペクト仮説の傾向—	橋本ゆかり
小特集「国立国語研究所の 60 年」	
概観 及び 社会言語学的調査研究	杉戸 清樹
方言研究	佐藤 亮一
語彙・計量研究	石井 正彦
国語教育・政策	甲斐 睦朗
日本語教育	西原 鈴子

## 『日本語科学』投稿規定・執筆要領

### 注意

以下の規定・要領にかかわらず、平成20年10月末日をもって投稿の受付をしばらく休止しています。詳しくは本誌末尾の「休刊に関する重要なお知らせ」を御覧ください。

制 定 平成9年4月  
最終改訂 平成18年7月10日

### 1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、並びに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

### 2. 発行の時期

本誌は年2回（4月、10月）発行する。（投稿の受付は随時）

### 3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

### 4. 原稿の内容と種類、分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。なお、原則として、対象とする時代は明治中期以降とする。投稿原稿の種類と分量（タイトル、氏名、キーワード、要旨、概要を含む）は以下のとおりとする。

**研究論文**：オリジナルな知見の提供を含む学術論文。（20ページ程度）

**調査報告**：調査結果の記述を主とする報告。（20ページ程度）

**研究ノート**：問題提起、事例報告、中間報告などの小論文。（10ページ程度）

各投稿原稿は、CD-ROMの形でデータやプログラム等を添付することができる。

このほか、所内外の研究者に**展望論文**（研究動向、現時点での課題、将来の展望などについて論じた論文、20ページ程度）、**書評論文**（20ページ程度）等の執筆を依頼することがある。

### 5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし、例文等において中国漢字（簡体字・繁体字）、ハングル、キリル文字、ギリシャ文字を用いることは可（それ以外の文字はローマ字化）。
- 2) 原稿はA4判横書き、43字×36行で作成する。（編集委員会が認めた場合に限り縦書きも可。A4判縦書き、30字×21行×2段。）英文の場合はマージン上下2.5cm、左右2cm（フォント12ポイント、1.5スペース）を目安に原稿を作成する。ページ下中央にページ数を入れる。
- 3) 研究論文、調査報告及び研究ノートには、**キーワード**（五つ以内）、**要旨**（問題と結論の要約、10行程度）、**概要**（議論全体の概要、英文は250語以内、邦文は20行以内）を付ける。邦文論文の場合、要旨・キーワードは日本語、概要は英語を用いる（概要には英語のキーワードも付ける）。英文論文の場合、要旨・キーワードは英語、概要は日本語を用いる（概要には日本語のキーワードも付ける）。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任において行う。

4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献は、邦文・欧文・その他の文字の順で、字種ごとにまとめたうえで、辞書順に配列する。

文献一覧の書式は以下のとおり。

**【書式】**

著者名（発表年）「論文タイトル」『書名／雑誌名』巻号（雑誌の場合）、ページ、発行所

**【例】**

井上優・生越直樹（1997）「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会

宮島達夫（1972）『国立国語研究所報告 43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

Bolinger, Dwight（1978）Yes-no questions are not alternative questions. In H. Hiz (ed.) *Questions*. 87-105. Dordrecht: D.Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard（1975）The meaning of questions. *Language* 51. 1-31.

5) 付属CD-ROMにデータ等を添付する場合は、容量やデータの形式等について、あらかじめ編集委員会に確認をとってから投稿する。

## 6. 査読

研究論文、調査報告、研究ノートは、編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領に基づき審査する。編集委員会は、査読結果に基づいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者に知らせず、査読者の氏名も著者に知らせない。

査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示、著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

## 7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿の際には、次の(1)(2)を委員会に送付すること。なお、投稿原稿は原則として返却しない。

(1) 原稿4部（著者名の入ったもの2部、無記名のもの2部）

(2) 以下の事項を記した「別紙」。

なお、共著の場合、1)と2)については共著者全員の情報、3)と4)については、代表者の情報を記載すること。

1) 著者の氏名（読み仮名）

2) 所属・職名

3) 大学以降の学歴

※ 卒業・修了・退学後10年未満の場合のみ必要。

4) 連絡先（住所・電話番号・E-mail）

5) 原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノートの別）

## 8. 採用決定後の修正

採用決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き、採用決定後の改稿や修正は認めない。

## 9. 著作権

- 1) 他の著作物に掲載された図版の転載等にかかわる著作権処理, 及びデータの利用・公開にかかわる関係者の許諾取得は, 著者の責任において行うこと。
  - 2) 掲載された論文等の著作権(著作権法第 27 条, 28 条を含む)は国立国語研究所に帰属する。
  - 3) 掲載された論文等の要旨は, *Linguistic Abstracts*(アリゾナ州立大学編集)に英文で掲載される。
- 

### 投稿原稿送付先

〒 190-8561 東京都立川市緑町 10-2

独立行政法人国立国語研究所 『日本語科学』編集委員会

### 投稿・編集に関する問い合わせ先

独立行政法人国立国語研究所 『日本語科学』編集委員会

電話：042-540-4300 (代)

FAX：042-540-4333 (代) ※必ず『日本語科学』編集委員会あて明記のこと。

E-mail：kagaku@kokken.go.jp ※添付ファイル付きのメールは受信できません。

## Instructions for Submitting Manuscripts to *Japanese Linguistics*

### Attention

Acceptance of manuscripts has been temporarily suspended from November 1st, 2008. See the important announcement on the last page of this issue for more details.

### 1. Purpose of the Journal

The purpose of this journal is to contribute to the development of a variety of different fields in the study of Japanese. To this end, it publishes the results of research done at The National Institute for Japanese Language (formerly The National Language Research Institute), as well as research conducted elsewhere that is deemed relevant to the interests of the Institute.

### 2. Time of Publication

The journal is published twice a year in April and October. Manuscripts can be submitted anytime and are processed throughout the year.

### 3. Qualifications for Submission

No special qualifications are required of authors, but all manuscripts must conform to the goals of the journal.

### 4. Content, Categories and Length of Manuscripts

All manuscripts must be previously unpublished. As a rule, their focus should be on the time period after mid-Meiji. The categories and approximate lengths of manuscripts (including title, name, keywords, abstract, and summary) are as follows:

- 1) **Articles:** Research papers presenting original ideas (about 20 pages).
- 2) **Reports:** Descriptive reports of research, surveys and questionnaires (about 20 pages).
- 3) **Notes:** Short papers that raise questions, case studies, and interim reports of ongoing research (about 10 pages).

Manuscripts may also be accompanied by a CD-ROM of data and programs that will supplement the journal.

The journal may also ask researchers outside the Institute to write prospect papers (i.e., papers on trends in research, current research issues, or future research prospects) (about 20 pages), or book reviews (about 20 pages).

### 5. Style

- 1) Manuscripts should be written in Japanese or English. Chinese characters (simplified or traditional), Hangul, Cyrillic and Greek characters or letters can also be used in examples. All other orthographic symbols should be transcribed in the Latin alphabet.
- 2) Japanese manuscripts should be submitted in horizontal format with 43 characters x 36 lines on A4 (or 8.5" x 11") paper. (Manuscripts can be submitted in vertical format only with the approval of the editorial committee. Such manuscripts should be prepared with 30 characters x 21 lines in two

sections). English manuscripts should be prepared on A4 (or 8.5" x 11") paper and typed on one side only with 2.5 cm margins at the top and bottom and 2 cm margins on the left and right. 12 pt typeface should be used with line spacing set at 1.5 lines. Each page should have the page number as a footer.

- 3) All manuscripts should have Japanese and English titles. **Articles, Reports and Notes** should contain the following elements:

*Japanese articles, reports and notes:*

- a) Keywords in Japanese (up to 5 words) and English equivalents
- b) Abstract in Japanese (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
- c) Text body
- d) Summary in English of the overall argument (about 250 words)

*English articles, reports and notes:*

- a) Keywords in English (up to 5 words) and Japanese equivalents
- b) Abstract in English (about 10 lines) providing a statement of the problem and solution
- c) Text body
- d) Summary in Japanese of the overall argument (about 20 lines)

For all manuscripts, it is the responsibility of the contributor to have the Japanese or English portion of his/her manuscript checked by an educated native speaker of the language.

- 4) Notes and references should be provided at the end of the manuscript.

All works referred to should be sorted by kind of orthography (Japanese first, followed by European languages, and then others) and be listed in dictionary order in each language, as follows:

井上優・生越直樹 (1997) 「過去形の使用に関わる語用論的要因 – 日本語と朝鮮語の場合 – 」『日本語科学』 1, 37-52, 国書刊行会

宮島達夫 (1972) 『国立国語研究所報告 43 動詞の意味・用法の記述的研究』 秀英出版

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions. In H. Hiz (ed.) *Questions*. 87-105. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions. *Language* 51, 1-31.

- 5) Contributors wishing to submit material for inclusion in a supplementary CD-ROM should contact the editorial committee to obtain their consent regarding the format and file-size.

## 6. Review Procedures

Manuscripts will be read anonymously by two referees appointed by the editorial committee; all manuscripts will be reviewed according to the journal's guidelines. Committee will determine whether a manuscript is to be published, based upon the results of the referees' reports. All contact between referees and authors (regarding referees' questions, comments and suggestions and the author's response) will be carried out via the editorial committee.

## 7. Procedures for Manuscript Submission

Manuscripts are accepted and processed at any time. All manuscripts sent to the editorial committee should be accompanied by an information sheet that includes: 1) author's name (with Katakana reading), 2) affiliation and title, 3) university level education and higher (if within the last 10 years),

4) contact address, telephone number, and e-mail address (In case of a co-authored work, only the primary author's address, telephone number, and e-mail address should be included.), and 5) category of manuscript (article, report or notes). Four copies of the manuscript (two with author's name and two without author's name) should be sent together. As a rule, manuscripts will not be returned to authors.

#### **8. Corrections and Revisions of Manuscripts**

After the editorial committee makes a decision to publish a manuscript, they may request that the author make changes to the style and format. The committee may also make minor format changes at its discretion. Once the decision to publish a manuscript is made, the author will not be allowed to make any further changes to his/her manuscript, except where revisions are requested by referees and the editorial committee.

#### **9. Copyright**

- 1) Authors are responsible for obtaining written consent from research subjects, as well as permission to use any copyrighted material or databases as a source in their manuscripts.
  - 2) The copyright for all papers published in the journal belongs to The National Institute for Japanese Language (according to the Copyright Law of Japan, including Articles 27 and 28).
  - 3) Summaries of published articles appear in *Linguistic Abstracts* (Arizona State University) in English.
- 

Manuscripts should be submitted to:

Editorial Committee, Japanese Linguistics  
The National Institute for Japanese Language  
10-2 Midori-cho, Tachikawa-shi, Tōkyō 190-8561 JAPAN

For further information, contact the editorial committee at the above address or send a fax or e-mail to:

FAX: 042-540-4333

E-mail: [kagaku@kokken.go.jp](mailto:kagaku@kokken.go.jp)

査読者一覧 (第 24~25 号)

(五十音順, 敬称略)

石井恵理子, 石井正彦, 伊藤健人, 井上優, 植木正裕, 宇佐美洋, 大島資生, 大西拓一郎,  
岡本能里子, 荻野綱男, 小椋秀樹, 生越直樹, 尾崎喜光, 柏野和佳子, 片岡喜代子,  
熊谷智子, 小磯花絵, 小山悟, 斎藤倫明, 酒井彩加, 定延利之, 佐藤琢三, 佐野由紀子,  
澤田浩子, 杉村泰, 杉本明子, 高梨克也, 田中牧郎, 伝康晴, 富樫純一, 新野直哉,  
仁科明, 早津恵美子, 福永由佳, 彭飛, 松下達彦, 松見法男, 丸山岳彦, 水野義道,  
三井はるみ, 茂木俊伸, 初山洋介, 森篤嗣, 森雄一, 森本順子, 森山卓郎, 柳澤好昭,  
山内博之, 山崎誠, 山田昌裕, 横山詔一

『日本語科学』24 正誤表

p. 2 目次 下から4行目

誤: 総合雑誌に見る「状態」の用法 → 正: 総合雑誌に見る名詞「状態」の用法

p. 52 下から7行目

誤: 埼玉大学教養部 → 正: 埼玉大学教養学部

p. 106 18行目

誤: (横山 2007) → 正: (横山・真田 2007)

p. 107 18行目

誤: (熊谷 2006) → 正: (熊谷・木谷 2006)

p. 108 下から18行目

誤: 熊谷智子 (2006) → 正: 熊谷智子・木谷直之 (2006)

p. 108 下から2行目

誤: 横山詔一 (2007) → 正: 横山詔一・真田治子 (2007)

## 編集後記

今号には、研究論文4編、調査報告1編、研究ノート2編、そして研究所報告2編を掲載しました。

ここで残念なことを二点記します。ひとつは初代編集委員長をつとめられた江川清氏の訃報です。病氣療養中とうかがっていましたが、この二月にお亡くなりになりました。知らせを受けたのは、この後記を書いている最中のことでした。実は、前号に掲載した小特集では執筆を一旦お引き受けいただきながらも御病気のため途中で断念なされた経緯がありました。心よりお悼み申し上げます。もう一点は、前号からお知らせしていることですが、本誌の休刊です。『日本語科学』は今号をもってしばらく休刊します。御愛読いただいた皆様、御支援・御協力いただいた方々に感謝申し上げます。同時に、新たな方針の下での再刊に御期待願います。 (大西拓一郎)

### 編集委員

大西 拓一郎 (委員長, 国立国語研究所)      鈴木 美保子 (国立国語研究所)  
植木 正裕 (国立国語研究所)                  高田 智和 (国立国語研究所)  
小磯 花絵 (国立国語研究所)                  森 篤嗣 (国立国語研究所)  
小木曾 智信 (国立国語研究所)

### 休刊に関する重要なお知らせ

独立行政法人国立国語研究所は、平成19年12月24日の閣議決定により「大学共同利用機関法人に移管する」こととされ、現在、平成21年10月1日に移管すべく必要な準備を進めております。このため、『日本語科学』についても、新研究所の目的・研究領域に応じた編集方針とするなどの見直しを検討する必要があります。つきましては、平成21年4月の刊行(第25号)を行った後、しばらくの間休刊することとします。また、投稿論文の募集につきましても、平成20年11月1日以降しばらくの間休止いたしております。皆さまには、新しい編集方針が決まり次第速やかにお知らせいたしますので、御理解いただけますようお願いいたします。

### 『日本語科学』25

2009年4月24日 発行

編 集 国立国語研究所  
『日本語科学』編集委員会  
〒190-8561 東京都立川市緑町10-2  
TEL.042-540-4300 (代表)

発 行 国書刊行会  
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15  
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

印 刷 シーフォース  
製 本 村上製本所

(平成21-1)